

育教の兒幼

月五年九和昭

佛心と童心

◇
佛心は慈悲。慈悲は先づゆるす心である。その大きなゆるしの前には、多分善もなし悪もなし、たゞすべてに對する無差別のいたわりだけがあるのであらう。佛を信じて罪障が消滅するさいふのものも、佛が始めから、人間の罪障をゆるしてゐて下さるからである。その無際限のゆるしの中に心を浸されて、罪人も罪人でなくなるここに外ならぬであらう。

◇
佛心の偉大さは容易に測り知り得ない。しかし、ゆるされる心がさういふ心かは考へて見るこゝが出来ぬ。それは、責めつけられない心である。咎められない心である。罪をいつまでも追跡されない心である。従つて、その前にあるものは隠しや、飾りや、詐りや、反抗や執拗や、さういふ一切の我執から解放させられる。つまり、萬人が、その本然の無我に歸らされるのである。

◇
佛心の宏大無邊にくらぶべくもないが、童心が、これに似た幸福を私達に與へて呉れる。尙ほまた、佛心は餘りに崇高で、時に私達の方から近づき兼ねる事があつたりするが、童心にはさういふこころもない。そこには、ゆるされることも識らずにゆるされる心易さがある。抱かれるよりも抱いてやる親しさがある。その近づき易いあざけなさこそ、誰れでもの心を直ぐほざいて呉れずにゐない。